2021 年 10 月 4 日
日本医療科学大学

「新型コロナウイルスワクチン（COVID-19 ワクチンモデルナ筋注）職域接種後副反応疑い調査中間報告（2 回目接種）」

- **日本医療科学大学において新型コロナワクチン（COVID-19 ワクチンモデルナ筋注）職域接種後の副反応疑い調査（2 回目接種）を実施しました。**
- **接種箇所の副反応は、痛み（約 93%）、腫れ（約 69%）が多くみられ、その他の症状は、倦怠感（約 88%）、発熱（約 86%）、筋肉痛（約 76%）、頭痛（約 73%）、寒気（約 62%）、関節痛（約 54%）の順で多くみられました。**
- **発生頻度は多くの場合 2 日目がピークとなり、6 日目頃には大幅に低下していました。**
- **女性は全体的に発症率が高い傾向がみられました。**
- **ほとんどの症状で、2 回目接種後の方が 1 回目接種後よりも高い発症率となっていました。**

背景

現在、新型コロナウイルスワクチンの接種が進み、モデルナ社製ワクチンの職域接種も広く行われるようになってきています。しかしながら、モデルナ社製ワクチンにおける副反応疑いの大規模な調査は厚生労働省による自衛官を主対象とした調査などに限られ、職域接種における調査報告もごく少数です。そのため、一般の方への正確な情報提供は未だ不十分な状況にあります。

日本医療科学大学では学生・教職員・学外関係者 1800 名に対し、新型コロナワクチン（COVID-19 ワクチンモデルナ筋注）の職域接種を実施しました。ワクチン接種後の副反応疑いのアンケート調査を行い、2 回目接種では 758 件の回答を得ました（無回答等を含む）。本調査の回答は、男女がおよそ半々で、10 代・20 代が多く含まれていました（回答の約 7 割）。本調査の結果は、特に若年層の副反応疑いの状況を正確に理解する上で有用だと思われます。

結果

ワクチンの接種日～8 日目において、接種箇所の副反応が発生した人は、痛みが約 93%、腫れが約 69%、赤みが約 53%、かゆみが約 44%の順で多くみられました。その他の症状が発生した人は、倦怠感が約 88%と多くみられ、次いで発熱が約 86%、筋肉痛が約 76%、頭痛が約 73%、寒気が約 62%、関節痛が約 54%でした。多くの症状の発生は 2 日目がピークとなり、6 日目頃には大幅に低下していました。性別で比較すると女性は全体的に発症率が高い傾向がみられました。年代別では、若年層は多くの症状において接種日での発症率が他の年齢層よりも高い傾向があり、中高年齢層では症状によって接種後 3 日目以降の発症率が他の年齢層よりも高い場合がありました（40 代では倦怠感が 3～5 日目、頭痛が 3～4 日目で高い、50 代では痛みが 5～8 日目、腫れが 4～6 日目、筋肉痛が 4～8 日目で高い、60 代では倦怠感が 8 日目に高い）。ほとんどの症状（筋肉痛以外）において、2 回目接種後の方が 1 回目接種後よりも高い発症率となっていました。

中間報告の資料は以下に掲載しています。

1回目接種 URL：https://www.nims.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2021/09/1st_result.pdf

2 回目接種 URL：https://www.nims.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2021/10/2nd.pdf

「新型コロナウイルスワクチン(COVIT-19 ワクチンモデルナ筋注)職域接種後副反応疑い調査中間報告(2 回目接種)」を受けて

URL： https://www.nims.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2021/10/2nd_result_impression.pdf

【補足事項】

※本資料は中間報告であり、論文の査読を通過した内容ではありません。詳細な解析を追加で行い、続報や論文等で今後発表を行う予定です。本調査にご協力いただいた皆様、誠にありがとうございました。

【お問い合わせ】

日本医療科学大学 IR 推進室長
徳永 千尋
TEL: 049-294-9000（代表）
E-mail: tokunaga@nims.ac.jp